

六甲高山植物園 ベストシーズン到来! ～花木の王様 ツクシシャクナゲが見頃です～

阪神電気鉄道株式会社(本社:大阪市 社長:藤原崇起)のグループ会社である六甲山観光株式会社(本社:神戸市 社長:宮西幸治)が、六甲山上で運営を行っている六甲高山植物園では、様々な花が咲き誇るベストシーズンを迎えました。園内では、華やかなピンク色の花を咲かせ、花木の王様との呼び名もある「ツクシシャクナゲ」が見頃を迎えており、その他、高山の岩場を模したロックガーデンでは様々な種類の高山植物が咲き始めています。



◆ツクシシャクナゲ〈ツツジ科〉

Rhododendron degronianum subsp. *heptamerum*

九州、四国から本州(紀伊半島)の広葉樹林内に生育する高さ3～4mの常緑低木です。ピンク色の花は径約5cm、先が7つに分かれており、枝先にこぼれんばかりにボール状の花をつける様子から「花木の王様」「高嶺の花」とも呼ばれています。園内では、他にハクサンシャクナゲ、ホソバシャクナゲ、ヤクシマシャクナゲなどを栽培しており、6月上旬まで華やかな花を咲かせる見込みです。

【ロックガーデンに咲く花々は次ページに記載しています】



◆リリースに関するお問合せ先

六甲高山植物園

TEL:078-891-1247/FAX:078-891-0137/〒657-0101 神戸市灘区六甲山町北六甲4512-150

◆営業概要

【入園料】大人(中学生～64歳)620円 / 小人(4歳～小学生)310円 / シニア(65歳以上)520円

【開園期間】3月19日(土)～11月23日(水・祝) 【休園日】9月1日(木)、8日(木)

【開園時間】10:00～17:00(16:30受付終了)

【ロックガーデンの花々】

高山の岩場の風景を模した「ロックガーデン」では、高山植物が咲き始め、「ゲンチアナ・アコーリス」「チングルマ」「エゾノツガザクラ」「ボタンキンバイ」といった花々が咲き始めています。通常、高山帯や寒冷地でなければみられない花ですが、当園は年平均気温約9℃という冷涼な気候であるため、高山に咲く花を自然に近い状態で観賞することができます。

◆ゲンチアナ・アコーリス〈リンドウ科〉

Gentiana acaulis

ヨーロッパの高山に広く分布するリンドウの仲間で、別名チャボリンドウ(矮鶏竜胆)とも呼ばれます。矮鶏とは小形で足が短い鶏のことで、茎が短いとこの別名がついています。高さは5~10cm、花は長さ約5cmあり、その高さと比較して大きな花をつけるため、一際目立ちます。花は晴天時のみ開きます。エーデルワイス、アルペンローゼとともにヨーロッパアルプス三名花の1つとして知られています。当園では、約60株を植栽しており、5月上旬までお楽しみいただける見込みです。



ゲンチアナ・アコーリス

◆チングルマ〈バラ科〉

Geum pentapetalum

北海道・本州(中北部の高山帯)の湿生のお花畑を代表する植物で、雪田や雪渓の周囲に大群落をつくる落葉小低木です。高さは15cmほど、茎は多く枝分かれして地表を這い、葉は切れ込みがあります。花が咲いた後、雌しべの花柱が伸び、白い毛が羽毛状につき、この白毛が風にそよぐ様子をおもちゃの稚児車(カザグルマのこと)に見立てたことからこの名前がつきました。当園では約200株のチングルマを5月上旬まで観賞できる見込みです。



チングルマ

◆エゾノツガザクラ〈ツツジ科〉

Phyllodoce caerulea

大雪山など北海道の高山に生える常緑小低木です。高山帯の草地や雪田に大群落を作り、その紅紫色の花は目を奪う鮮やかさがあります。針葉樹のような線形の葉を密生しカーペット状の茂みを作ります。花柄は真上に伸びて赤みを帯び、上部で首を曲げ、釣鐘のように花を垂らします。花冠は少し長めの壺形で先端がくびれ、先が浅く5つに分かれています。当園ではロックガーデンに咲く様子を5月上旬までお楽しみいただける見込みです。



エゾノツガザクラ

◆ボタンキンバイ〈キンポウゲ科〉

Trollius pulcher

北海道の利尻島の高山草原に生育する多年草。茎は高さ20~40cmで、根元から株立ちとなり、普段は枝分かれせずに茎先に一輪の花をつけます。(まれに枝分かれし、二輪以上の花をつけることがある。)花は径3~3.5cmで多くの萼片が完全には開かずやや球形になり、その様子がボタンの花のように見えることから和名がつきました。花柱が赤いのも特徴の1つです。園内のボタンキンバイは5月中旬まで観賞できる見込みです。



ボタンキンバイ